



現在



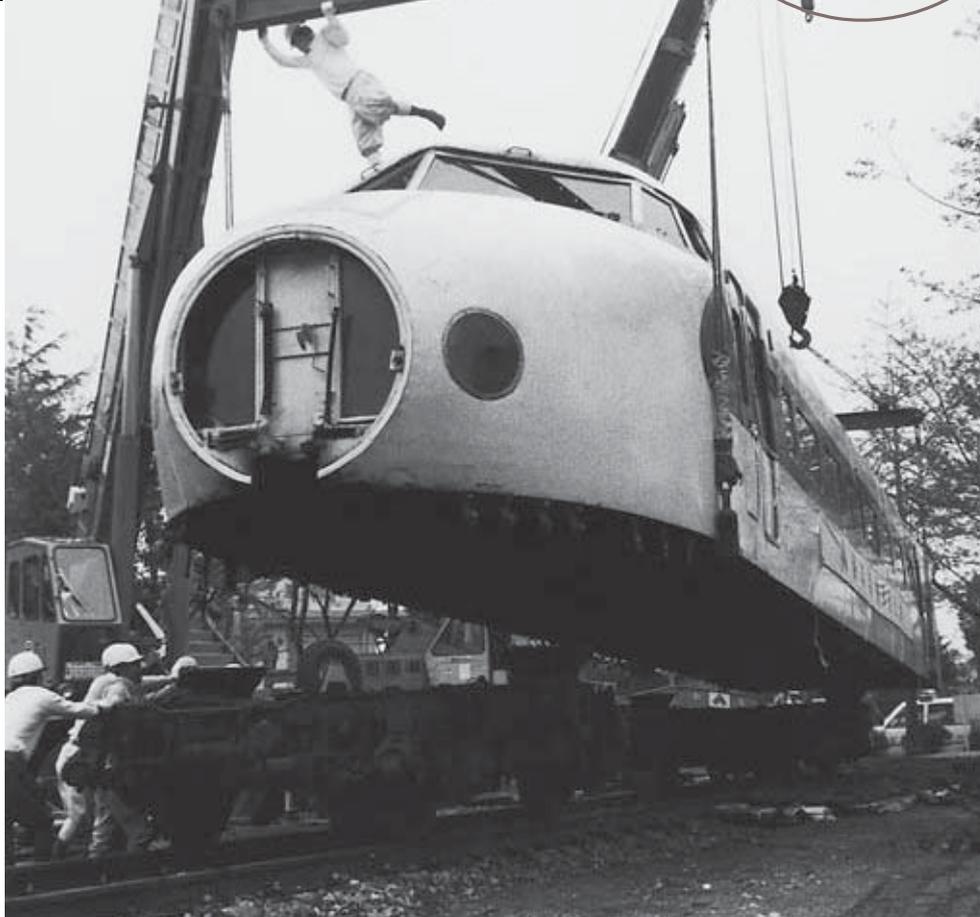
= 58 =

しん どおりちよう

新通町公園に新幹線が登場！

昭和58年4月

富士市写真館



この車両は、昭和43年3月に製造された、0系初期型広窓新幹線「こだまK11号」の先頭車両です。モデルチェンジのため、昭和58年2月に廃車されるまでの15年間に、521万1387キロメートルを走りました。浜松市の工場で解体されるに当たり、「新幹線を身近に見られることが、子どもたちの夢を育てるために役立てば」と、高

木一三かずみさん（故人・柏原）の厚意により、旧富士警察署（現在のラ・ホール富士）の北側、新通町公園に移転され、展示されることになりました。
土・日曜日、祝休日の10時～15時には新幹線内部を見学でき、毎月第2日曜日には鉄道模型のデモ走行やミニSSLの走行・乗車体験も行われています。

「夢の超特急」が手の届く場所に

新幹線は、子どものころにみんながあげた「夢の超特急」です。昭和39年、東京オリンピックの開催に合わせて開業した東海道新幹線は、高度経済成長の象徴でもありました。小学生のとき、東京タワーを見るために、家族と一緒に初めて新幹線に乗ったときのうれしさは、今も忘れません。

本物の新幹線の車両が、日本で初めて富士市の公園に展示されると聞き、当時、地元テレビ局に勤めていた私は、ビデオカメラを担いで移転作業の現場を訪れました。車両を載せた大型トレーラーは、深夜に浜松市を出発し、国道を通って夜明け前に富士市に到着。輸送班の見事な運転技術で、公園手前の狭い路地も、電柱や建物の軒先をぎりぎりにすり抜け、無事公園の中へ入りました。この写真は、大型クレーン2機が69トンの車体をつり上げ、台車と連結する瞬間です。私はカメラを回しながら、子どものように胸が高鳴っていました。

公園には、多くの親子連れや鉄道ファンが訪れます。親も目を輝かせながら、懐かしそうに子どもに語っていますよ。子どもたちが鉄道にふれる場として、未来のために大切に保存していきたいと思えます。



当時、カメラマンとして現場で撮影し、今も公園を楽しみに訪れている

神田 隆文さん（神谷）

こちら編集室

私の「取材ノート」には、広報ふじのインタビューで出会った皆さんのお話が詰まっています。5年間で6冊。昨年の戦争体験特集では、26人のお話で一気に1冊がいっぱいになりました。読み返すと、皆さんと一緒に笑ったり、胸が苦しくなったりしたことを思い出

します。皆さんの声をちゃんと伝えたくて、パソコンを前に何時間も悩んだものでした。異動により今回の表紙が編集室での最後の撮影になりましたが、この桜や新通町公園をはじめ、たくさんの富士市のいいところやすてきな笑顔に出会えました。ありがとうございました。(り)

人口	261,599人	(前月比+26)
男	129,576人	(-16)
女	132,023人	(+42)
世帯	95,998世帯	(+71) 3月1日現在
編集・発行	富士市総務部広報広聴課	
〒417-8601	静岡県富士市永田町1-100	
☎0545-51-0123(代)	☎0545-51-1456	

平成21年4月5日号（毎月5日・20日発行）

ウェブサイト <http://fujishi.jp>